



19940417  
 総 9 号  
 発行  
 桂 坂 会 会  
 治 連 委  
 自 広 報

# 自主防災にご理解とご協力を!

■ つくろ 防災に強い町 ■ 広げよう 防災の輪

去る二月二十七日、桂坂学区自主防災会の結成式が、桂坂小学校の体育館で挙行されました。大枝中学校ブラスバンドのラデッキー行進曲など軽快な演奏で祝典の幕が開き、桂坂自主防災会の標旗が、西京消防署長から菊池会長に交付されました。菊池会長の挨拶と経過報告のあと、平野西京区役所洛西支所長、山上西京消防署長、豊田西京区自治連合会長など来賓の方々から祝辞をいただきました。

防災会の規約は田畑副会長が説明。各役員を紹介があつて、各自治会の「自主防災部」にそれぞれ防災部の旗、ヘルメット、腕章が交付されました。時間の関係で、映画「みんなの自主防災組織」が上映できず、「自主防災」の重要性、必要性を映像を通して確認しただけなかつたこと、まことに残念でした。当日の会長挨拶、来賓のお話など以下に綴り合わせて、桂坂自主防災会に寄せられた期待と忠告を再構成してみます。

永年の懸案だった自主防 学校の校長先生などのお知 災害は忘れた頃、また 災の組織も、昨年九月頃か 恵も拝借、「わが街はわが 忘れずに、やって来る ら消防署、地域振興室、各 手で守る」という共通の認 識の下、陰陽多大の協力を これ以来、貴賓などたの祝辞 提供によってようやく結成 得ながら、西京一七学区で にもありました。

## 一年を顧みて

自治連合会 会長 菊池潤治

昨年五月の総会で新体制として発足以来、はや一年を迎えようとして居ります。

その間、総選挙、京都市長選挙をはじめ、夏祭り、名月観賞の夕べ、体育祭、夢フェスティバル、そして自主防災会、地域女性会の誕生など、次々とあり、住民の方々のご協力を得ながら、役員も多忙の一年でした。

特に自主防災会の設立につきましては、各自治会長、各種団体長及び学校、施設、企業も一丸となり、シンボルマークまで

平成六年三月二十二日、京都桂坂郵便局が開局いたしました。

これも、地域の皆様のご理解と関係者各位のお力添えによるものと深く感謝しております。

さて、ご承知のとおり、郵便局は、郵便、貯金、簡易保険のサービスを、約二万四千にのぼる全国郵便局のネットワークを通して、日本国内津々浦々のお客様に、あまねく公平なサービスとして提供し、国民生活を

## 二 挨拶

桂坂郵便局長 宮田 いずみ

「断層のあることを知って対処してほしい」。「防災会の活動をさらに活発にし」更に「地震、風水害、火災に対処する」ために「日頃の訓練、こうした集まりへの参加、そして日常の話し合いのなかで認識を高めていただきたい(消防署長)」

また、「関東大震災時に生まれ、丹後の地震、昭和九年の室戸台風による風水害の経験」から「桂坂学区は地盤の堅いところだが、決して油断はできない」、「地震・台風など災害の多い日本」における「その対応策」は「みんなで災害を少なくすることに尽きる」(西京自治連合会長)——いずれも私たちの戒めとすべきことばです。

「電気、そしてガス、事が起ればパニック状態を惹き起こしかねません。こうした災害に「てきぱきとした行動をとれるようにする」とが肝要」で、市は建都二〇〇年の節目を機に「平成の都づくり」の一環として「防災センター」をつくりたい。(洛西支所長)

より強固な組織に

生まれればかりの幼い組織です。今後は私たちの手で、名実兼ね備わったものにしていかねばなりません。



我が「さつき自治会」は、替わりも結構ありますが、今後増加するものと思われ

この辺りは、高台に位置するせいか、場所によって、市内が一歩出来るため、夏には、夜になると夕涼みがてら夜景を眺めに若い人も訪れてくるようです。また、桂川の花火や大文字の送り火も一部見ることが出来ます。

今年新たに夏祭り準備委員なるものも発足し、自治会各委員が自覚を持って活動していきよう、心掛けていきたいと思っております。

ひとつ気になるのは、この自治会に入居者は比較的中・高年の方が多く、思われ、秋の桂坂体育祭への若い方(私のような...)の参加者が少ないという事ですので、なかなか上位入賞が出来ません。

今年、是非若い人達にも多数参加していただいて(若づくりでも結構!)去年よりも上位に入れるようがんばりたいと、一人思っております。

奥野 信 幸

## つばき自治会

「さつき自治会」は天蓋公園、緑道、そしてさつき自治会館を中心の一区、二区合わせて約二百十戸の住民で組織されております。

この二、三年、バブル崩壊の影響もあり、新築住宅の着工もあまり活発さが感じられませんが、最近また、あちらこちらで工事の風景を見かけるようになってまいりました。

そのため、さつき自治会自身の入居戸数も、入れ

## 桂坂学区自治連合会第5回総会

4月24日(日) 午後1時  
 場所：桂坂小学校 読書の森

右の絵柄は、桂坂自主防災会のシンボルマークで、あかしあ自治会の吉田重光氏が創案作成されたもので

これは、桂坂地域全体を対象とするロータリーを基調とし、災害を防ぐには、平素から関心をもち、多くの人が「大きな目を開き、よく見る」、そして、一丸となって対処することがなにより肝要と、その考えを図案化されたものです。

このシンボルマークは、各自治会に備えられているヘルメットの記章になって

また、桂坂自主防災会のシンボルカラーは、エンジ色です。

賛助会員募集の御礼

桂坂社会福祉協議会

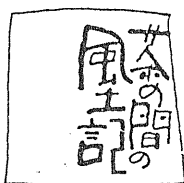
会長 湯浅 忍

「西京社協」(社会福祉協議会)が、昨年、新たに法人組織としてスタートをしたことに伴って、その活動や「社協」の理解を得るため賛助会員の募集をいたしました。

「桂坂社協」も、学区内の皆様には、一〇五〇円の会費ご協力をお願いいたしましたところ、総額四十七万六千円のご協力をいただきました。ご協力をいただきました、菊池連合会長様はじめ、各自治会役員様、特に直接の担当者として会員募集をお勧めいただいた各班長様にも、この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

「西京社協」も、当初目標としておりました五百万円の内、倍額の二千万円を悠に超える賛助をいただき、区民並びに桂坂学区の皆様方の、福祉に対しての熱意と期待に、私達も、今後の活動に対して、強く責任を感じています。

昨年、「桂坂社協」も幸い、福祉に対しての約六十五名のボランティア登録をいただきました。今後は、この方々を中心に、より積極的な社会福祉活動を進めたいと考えておりますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。今回の賛助会員の募集についてのお礼とさせていただきます。



(3) 昔は今枝大

桂坂の「変遷」をたどる田原正夫さんのお話は、昭和六十一年五月の「入居開始」時のことに入ります。

当時は、バスの運行はほとんど、店もありませんでした。工事車輻の行きかう中を「かえて自治会」(北沓掛町六丁目)に家が一軒、民間土のつながりを作って行く難しさを、そして、朝の

市バスの運行開始は、昭和六十一年十月ですが、当初はセンター前での折り返し運転だったそうです。その頃になると、大枝地区にも今までになかった変化が現れます。マンションや建て売り住宅の建築に伴い、他地区からの転入者が増えてくるのです。

地元の方が桂坂造成に際して考えた地域の活性化がなされてきたとも言えます。ところが、問題も出て来

通勤時、九号線へ通じる旧街道の車の洪水です。ひどい時には、中山バス停の辺りまで車は続いたそうです。四月には、桂坂小学校、大枝中学校が開校します。それまで子供たちは、九号線を横断し、新林小学校に通学していました。開校に至るまでには、その準備段階から大枝の方々の協力があったのですが、その話は次回にいたします。

田原さんのお話は、約三十年前のことですが、その時は、桂坂の街が出来るまで、桂坂の歴史はこれからは、私たちが一人ひとりの力で、

桂坂を歩いてみると、なるように、飼い主を散歩させている人の一人ひとりが、愛情に必ずといってよいほど責任をもちましよう。

桂坂の歴史は、私たちが一人ひとりの力で、桂坂の街が出来るまで、桂坂の歴史はこれからは、私たちが一人ひとりの力で、

桂坂小に 新校長先生

桂坂小学校の開校以来、五年間、校長を務められた中西一孝先生がこの度、定年退職されました。

中西先生は、「互いに尊重し合い、主体的に生活を創造する桂坂の子」を教育目標に、桂坂小学校の基礎づくりに尽力されました。

新校長として久我の杜小学校から寺内敦子先生が着任されました。

「子供たちが生き生きと目を輝かせる、楽しい学校生活を」と願っています。また、学校は、一人ひとりの良いところを伸ばせる場ではなくてはなりません。そのためには授業を大切に、教師自身が学ぶ姿勢を忘れてはならないと思います。

そのようにして子供たちが伸びることで地域の信頼を得ることができると思っています。寺内先生のお話、地域女性の発声周辺の桂坂。女性として教育者として活躍を期待します。



厚生園

庭の樹の小さな芽に春を見つけた日、ふれあいの里更生園で那須徹朗園長のお話を伺いました。

更生園では、六十名ほどの障害を持つ方が生活しておられます。障害は様々ですが、可能な方は亀岡の作業所へ行ったり、園外で野菜作りなどをされています。

「ここでは、(先生)、(指導)といった言葉は使いません。私たちはあくまで援助者であり、ヒューマンサービスをしているので、」とおっしゃる那須園長の言葉からは、人間としての思いが伝わってきます。

「地域の方に望まれる事業や花に、そして、実を結ぶまで育てたいものです。」地域の係わりは、キープ・アンド・テイクがあつて初めて成立するのです。例えば、私たちの作った野菜を地域の夏祭りや安売りとかが、まず皆さんに喜んでいただけることをしたいと思っています。というお答えの中に、地域の中で互いに生かしながら共存して行きたいという願いを感じました。

私たちは、ともすると障害を持つ方々に対して何かしてあげたいと思いがちです。でもそれは、違うのかも知れません。私自身、今回の訪問で多くのことを考えさせられました。

すべての人が共存している社会を作るためには、(指導)といった言葉は使いません。私たちはあくまで援助者であり、ヒューマンサービスを

市バス「西六」系統がバス停「堂ヶ峯町」から一日一便、洛西ニュータウンを経由せずに桂坂まで直行し始めました。また、この東地区では、近々住宅都市整備公団が三〇戸の住宅を建築、売り出して、いずれは一〇〇戸を目標に敷を連ねる計画だそうです。



この桂坂は、桂坂郵便局や「中信」桂坂支店が営業を開始し、センター街を中心に、どうやら日に日に変わっていきそうです。